

通し番号	5019
------	------

分類番号	R02-24-12-04
------	--------------

アスパラガス「採りっきり栽培」の収穫期拡大技術を開発しました

[要約] アスパラガス「採りっきり栽培」において、3月定植時に不織布をトンネル被覆して地温を高めることにより、翌年3月から6月にかけて約900kg/10aの可販収量が得られる。また、翌年1月から3月の期間、P0フィルムをトンネル被覆することにより、収穫開始期を40日程度早めることが可能である。さらに、株養成期の立茎数を10～20本に管理することにより、2L規格の割合が増える。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

#### [背景・ねらい]

明治大学とパイオニアエコサイエンス(株)が共同開発した「採りっきり栽培」(1年養成株全収穫栽培法)が川崎市を中心に県内で導入が広がっている。しかしながら、生産者による収量差が大きく、株養成に適した定植方法等の基本技術の確立が求められている。また、直売所への出荷時期が生産者間で重なることから収穫時期の拡大が課題となっている。そこで、3月定植に適した保温方法や冬期保温による収穫期前進効果等について明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 3月中下旬定植では、不織布によるトンネル被覆(3～4月)により地温を高め、株養成期の生育がよくなることで、翌年3月から6月にかけて約900kg/10aの可販収量が得られる(図1、表1、一部データ省略)。
- 2 翌年1月から3月までの期間、P0フィルムをトンネル被覆することにより、収穫開始期が対照区(無被覆)よりも40日程度前進し、2月上旬から収穫可能となる(表1、図2)。
- 3 株養成期に切除して立茎数を10～20本に管理することにより(対照区は放任)、市場性の高い2L規格(40g以上)の割合が増える(図3)。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 「採りっきり栽培」は、春に定植して翌春に萌芽した若茎をすべて収穫して1年で作付けを終わる栽培法である。慣行栽培に比べて茎枯病が発生ににくいといわれているが、予防主体の薬剤防除は必要である。さらに、次にアスパラガスを栽培する場合、茎枯病感染防止の観点から、栽培ほ場は可能な限り離れた場所がよい。
- 2 本試験におけるP0フィルムのトンネル栽培では、適宜、灌水を行っている。
- 3 株養成期には、順次、新たな茎が伸長してくることから、立茎数を管理する場合は、定期的に切除する必要がある。
- 4 栽培ほ場の移動に伴い、毎作ごとに支柱の設置、撤去作業が必要になる。

[具体的データ]

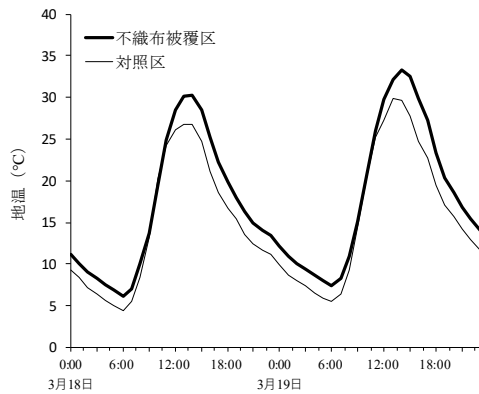


図1 定植後の地温（地下1cm）推移（2017）  
3月16日、畝幅140cm、株間40cmで定植（1,785本/10a）。

表1 3月定植栽培における収量特性

年度	試験区	被覆期間	収穫期間	可販本数 (本/株)	1茎重 <sup>z</sup> (g)	茎径 (mm)	可販収量 <sup>y</sup> (kg/10a)	可販率 (%)	L級以上収量 <sup>x</sup> (kg/10a)
2017	不織布被覆区 <sup>w</sup>	3/16-5/2	3/19-6/15	25.3	21.2	12.8	959	76.4	729
	対照区	無被覆	3/19-6/15	20.0	18.8	12.0	672	69.8	533
2019	PO被覆区 <sup>v</sup>	1/15-3/30	2/6-6/30	26.4	21.7	12.9	1,023	82.5	887
	対照区	無被覆	3/16-6/29	26.8	20.8	12.4	996	84.0	847

2017年3月16日、2019年3月22日に各々定植した（畝幅140cm、株間40cm）。<sup>z</sup>1茎重は長さ25cmの調製重。<sup>y</sup>可販収量は、1茎重×栽植本数（1,785本/10a）により、欠株はないものとして算出した。<sup>x</sup>等級は、2L:40g以上、L太:25~39g、L細:15~24g、M:10~14g、S:7~9g、B:5~6g、その他:4g以下および奇形で区分した。<sup>w</sup>不織布被覆区は、定植後に不織布（パオパオ90）でトンネル被覆した。<sup>v</sup>PO被覆区は、株養成後（地上部枯死）のベッド上をPOフィルムでトンネル被覆した。

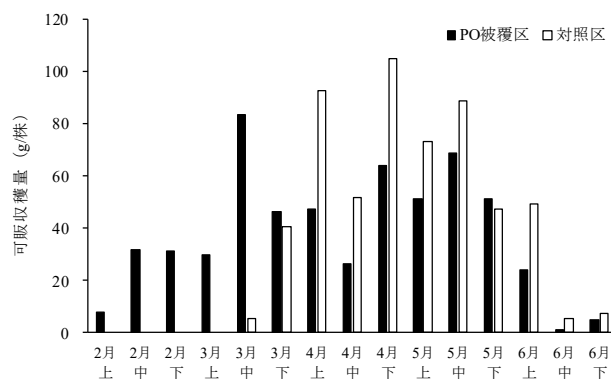


図2 1～3月のトンネル被覆による収穫期前進効果（2019）

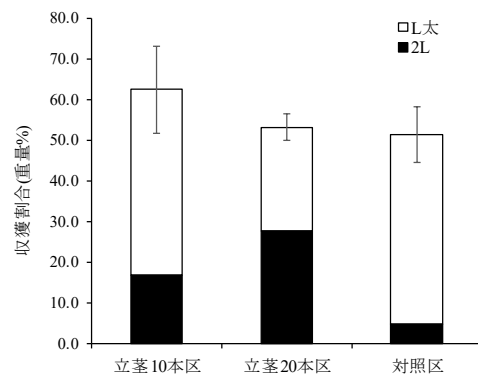


図3 株養成期の立茎本数と規格割合  
立茎10本区：14.3本、立茎20本区：20.6本、  
対照区：24.8本（2019年10月調査）

- [資料名] 平成29～令和2年度試験研究成績書（野菜）
- [研究課題名] 薬膳料理に使用できる農作物の栽培法の開発
- [研究期間] 2016(平成28)年度～2019(令和元)年度
- [研究者担当名] 高田敦之
- [協力・分担関係] 明治大学、(株)SenSprout、パイオニアエコサイエンス(株)